

社会福祉法人翠燿会

令和3年度事業報告書

特別養護老人ホームグリーンヒル
グリーンヒル短期入所生活介護
グリーンヒル居宅介護支援事業
グリーンヒルデイサービスセンター
同上 サテライト南デイホーム
グリーンヒル訪問介護
グリーンヒル福祉タクシー

特別養護老人ホームグリーンヒル八千代台
グリーンヒル八千代台短期入所生活介護
グリーンヒル八千代台居宅介護支援事業
グリーンヒル八千代台小規模多機能型居宅介護
同上 サテライト勝田台
グリーンヒル八千代台訪問介護
グリーンヒル八千代台キッズルーム

障害児通所事業

グリーンヒルキッズ村上
グリーンヒルキッズゆりのき台

自立援助ホーム

グリーンヒル若葉ハウス

八千代市勝田台地域包括支援センター
介護予防支援事業

法人本部総務課

令和4年5月

社会福祉法人 翠燿会

令和3年度事業報告並びに4年度方針 総括案

常務理事 津川 康二

公表によれば令和4年5月中旬現在県内の新型コロナ感染者数はこの2年で「443,197名」八千代市「15,744名」今なおかつ1000名を前後とする感染報告である。*1月からのオミクロン株に関する法人の状況は別紙のとおり報告とした。

(*ホームページにも掲載)

令和3年度もコロナ感染症対策におわれ続けた1年であったと言える。

実績から述べれば、千葉県、日本財団の支援のもと予防対策としてPCR検査の実施は、延べ7665件、うち陽性者は95名、クラスターには至っていない。月2回の介護施設等従事者むけの検査は水際対策として有効であり、集中的に対策強化が実践された。特に、令和2年3月より「ウイルスを持ち込まない」「もちこませない」実践を、職員・従事者が徹底して努力してきた。そして職員のご家族の状況把握に対してもご理解ご協力いただき、早期発見により対策が強化されてきたと感じている。

心から職員・従事者そしてそのご家族に感謝申し上げたい。

またワクチン接種に関しても、1回目2回目が八千代市より特養入所者並びに特養関連職員の接種が令和3年4月30日をおかわきりに実施、同年6月6日までには総勢300名を超える関係者に接種完了。2回目接種から3回目の接種までには、8か月半を経過したが、令和4年2月から3回目も順調に入所者、従事者ともに90%を超える接種を完了し、感染対策を図ることができた。

上記のとおり「コロナ感染対策」におわれ、かつ制限された1年であったが、この結果を活かして、通常の生活を取り戻す次年度であるよう職員と励みたい。

「面会制限の解除」「各種行事の再開」「ボランティア等を含めた交流の再開」「個別計画に応じたサービスの充実」「ご家族のみなさんとの交流」「地域の皆さんとの交流」「職員・従事者の余暇の充実」などなど、決してこの2年の頑張りが無駄ではなかったといえる、次の1年を目指します。

そのためには、この厳しい変化の時代にあって「法人の安定した経営」「ご利用者、ご家族に満足いただけるサービスの徹底」「介護人材の確保と育成」「社会福祉法人の在り方の再構築」を中心に本年度も、ご利用者、ご家族、そして地域から信頼される法人を目指してまいります。

各事業所の事業報告は、以下の通りです。

【令和3年度 特養・短期グリーンヒル 事業報告】

1) 目標稼働に対する実働状況

・令和3年度に於ける特養・短期の目標値116に対し年間を通し114.8という結果でした。入院延べ日数は令和元年度882日、令和2年度683日、令和3年度が198日と激減しており要因としてはご利用者の体調管理も大きい中で、レベル低下時の対応として以前は食思不振の際に胃瘻等の延命を希望される方も見受けられましたが、昨今ではターミナルケアを選択するケースが大幅に増加している事が一因となっているものと考えられます。

11月から2月にかけて退所者が16名と亡くなられる方が非常に多かった為、下半期の数値が低迷してしまった状況となりました。

2) 組織体制の強化

・技能実習生5名全員が夜勤帯の勤務迄行う事が出来るまでに成長出来たものの技能実習生以外の入職が難しく、職員全体の年齢が高くなり現場職員の疲労度が増している事からも、今後は若手の育成の必要性を感じています。

3) 感染症対策

・新型コロナウイルス感染症に於いては、早2年が経過する中で外出の自粛やご家族との面会の度重なる変更と大きな影響を受ける状況が続く中ご利用者・職員にはコロナワクチンの接種、PCR検査や抗原検査等様々な検査を実施する事で施設内でのクラスターを出さずに1年間を送る事が出来ました。

令和3年度 グリーンヒル特養・短期 実績報告

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年合計	年平均
月末利用登録者	102	102	100	100	98	98	99	97	98	96	94	97	1,181	98.4
入所延日数	3,035	3,159	3,050	3,092	3,059	2,957	3,092	2,915	2,985	3,025	2,650	2,956	35,975	2,997.9
入院延日数	30	33	0	0	1	42	3	32	29	13	15	0	198	16.5
利用実日数	3,005	3,126	3,050	3,092	3,058	2,915	3,089	2,883	2,956	3,012	2,635	2,956	35,777	2,981.4
1日平均利用者数	100.2	100.8	101.7	103.1	98.6	97.2	99.6	96.1	95.4	97.2	90.9	95.4		98.0
平均介護度	3.9	3.9	3.9	3.9	3.9	4.0	4.0	4.0	4.0	4.1	4.1	4.1		4.0
(介護度4・5割合)70%	68.4%	70.0%	70.5%	70.4%	72.0%	73.0%	74.9%	76.3%	76.0%	77.3%	79.2%	79.0%		73.9%
新規入所者数	1	1	0	1	0	1	3	0	5	2	3	3	20	1.7
日常生活継続支援加算 (介護度4・5割合)70%	90%	90%	85.7%	85.7%	80.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100%	93.3%	94.1		869.6%
(内介護度4以上)	1	1	0	1	0	1	3	0	5	2	2	3	19	1.6
(内認知度Ⅲ以上)	1	1	0	1	0	0	3	0	3	1	2	3	15	1.3
退所者数	0	1	2	1	2	1	2	3	4	4	5	0	25	2.1
負担限度額認定者	62	64	63	62	46	48	50	50	52	50	49	51	647	53.9
短期請求件数	21	27	23	20	26	29	31	28	32	29	25	26	317	26.4
短期入所延日数	474	537	485	522	589	625	544	516	530	483	391	443	6,139	511.6
特養・短期合計延日数	3,479	3,663	3,535	3,614	3,647	3,540	3,633	3,399	3,486	3,495	3,026	3,399	41,916	3,493.0
特・短1日平均数(予算116人)	116.0	118.2	117.8	116.6	117.6	118.0	117.2	113.3	112.5	112.7	108.1	109.6		114.8
稼働率/120	96.6%	98.5%	98.2%	97.2%	98.0%	98.3%	97.7%	94.4%	93.7%	94.0%	90.1%	91.4%		95.7%
前年度稼働率	96.3%	96.2%	96.3%	98.8%	100.0%	98.0%	96.3%	94.4%	96.3%	95.9%	92.9%	93.8%		96.3%
前年度との比較	0.4%	2.3%	1.9%	-1.6%	-2.0%	0.3%	1.3%	0.0%	-2.6%	-2.0%	-2.8%	-2.4%		-0.6%

令和3年度医務課事業報告書

グリーンヒル上高野

令和3年度新規入所者は、21名。（4/18現在）

看取りを含め、永眠された方は、25名。

1ヶ月の平均入院数は、1.0名。

ノロウイルス、インフルエンザ、疥癬等の感染症罹患者はなし。

肺炎球菌ワクチン予防接種該当者10名実施。今後も継続していく事とする。

ここ2年程、看取りを含めて永眠された方は、やや増加傾向にあるが、これは利用者の高齢化や、様々な持病があったり、介護度の高い=医療的依存度の高い方の管理が複雑化してきている背景もある。

その反面、入院者は、ここ数年の1/3以下となっており、6月、3月、4月は、入院者をゼロに抑える事が出来た。利用者の異常徴候の早期発見に努めると共に、週2回の嘱託医

診察で対応し、治療を敏速に開始することが、症状を悪化させる事なく、入院者を減らす 結果に繋がったと思われる。

今後も協力病院や嘱託医の協力体制のもとで、現状が、維持、継続出来るよう努めていきたいと考える。

新型コロナウイルスの爆発的な感染を受け、標準予防策を徹底実施継続しているが、職員の感染は、防ぎきれない状況下にある。持ち込まない→拡げないという事にも重点を置く必要がある。

定期的なPCR検査の必要性を感じつつ、ワクチンの追加接種の実施、体調不良者は無理させず休息させるなど、クラスター阻止の意識を常に念頭に置きながら、援助にあたっていきたいと思う。

令和3年度 管理部栄養課 事業実績報告

栄養課の理念

- ・ご利用者の健康状態や身体状況に応じた栄養管理(栄養ケアマネジメント)サービスを多職種と協力して行い、個人にあったADLの維持・向上に努めます。
- ・ご利用者にふさわしく安全で質の高い食事サービスを提供します。

令和4年度
利用者食事摂取推奨量
(2020年度版、日本人の食事摂取基準に準拠)

GH 令和4年 4月1日 現在	
エネルギー	1646Kcal
蛋白質	61.7g

GH八千代台 令和4年 4月1日 現在	
エネルギー	1689Kcal
蛋白質	63.3g

令和3年4月～令和4年3月における利用者の実態

令和4年度 グリーンヒル入所計画				令和4年度 グリーンヒル八千代台入所計画			
	男性	女性	平均		男性	女性	平均
入所者	16名	81名		入所者	5名	24名	
年齢	81.2歳	87.0歳	84.1歳	年齢	86.6歳	89.4歳	88歳
介護度	3.7	4.3	4.1	介護度	4.4	4.4	4.4

令和3年度 グリーンヒル入所者実績				令和3年度 グリーンヒル八千代台			
	男性	女性	平均		男性	女性	平均
入所者	21名	79名		入所者	3	26	
年齢	81.8歳	88.1歳	84.9歳	年齢	86.0歳	88.3歳	87.2歳
介護度	3.9	3.5	3.7	介護度	4.3	4.5	4.4

令和2年、令和3年における
食数実績・目標数

	グリーンヒル		合計	グリーンヒル八千代台		合計	グリーンヒル特養・通所 グリーンヒル八千代台特養・小規模多機能	総合計食数
	利用者	職員		利用者	職員			
令和3年度	131935食	10447食	142382食	53838食	4913食	58751食		201133食
令和2年度	134685食	10737食	145422食	52269食	5540食	57809食		203231食

フードサービス形態
クックチル
A セントラルキッチン

給食業務完全委託方式
A グリーンヒル特養・通所
グリーンヒル八千代台特養
B 給食業務直営方式
グリーンヒル八千代台・小規模多機能

A方式の帳票類は別途区分管理とする
・災害時発生時、食中毒・感染症発生時、グリーンヒル・グリーンヒル八千代台に属するマニュアルに準拠する
・大量調理施設マニュアルに準じる
・食品衛生法の衛生安全管理の維持徹底(HACCP方式 R3.6月)
・特別な個別膳(ミキサー食)(やわらぎ膳 有料)方式
・保存食・公衆衛生の実施(厨房内消毒4回/年・グリストラップ 1回/年)
院外調理(ひまわり)小規模施設(サテライトキッチン)
配膳・調理従事者の衛生管理(細菌検査 18回/年)

非常用食品の確保

・災害対策マニュアル策定
・天災害時の調理を必要としない食事サービスとして備蓄食品

・備蓄食品(非常用食品)の保管・資料 献立表策定している
・特定給食施設栄養管理
感染症対策マニュアル策定R3.3

行事食

・施設諸行事に伴う食事支援

・敬老会祝い膳
・個別対応食 おせち料理 お取り寄せ(やわらか食)1名 個人負担
・嗜好(刺身)1名 個人管理

会議

栄養委員会
・給食会議(食事委員会と調整連携)
・NCM会議(低栄養者及びケアプラン委員会と合同)

グリーンヒル
定例 第3木曜日 午前9時30分～ 会議室 12回/年
グリーンヒル八千代台
日時不定期 1回/月

栄養ケア・マネジメント

栄養管理

基本方針
I. 栄養ケアマネジメント 全利用者34回/年スクリーニング実施
II. 経口維持実施
経口移行 I. II
(医師・歯科医師による評価者)
III. LIFE厚生労働省へ送信
科学的介護情報システム(LIFE)
栄養マネジメント強化加算
管理栄養士 新規1名配置

①食事調査実施
・食事喫食量・水分摂取量・排尿量記入表
・生活と身体状況記録(介護・看護・栄養記録)
内容 身体計測、摂取目標量、摂取状況調査項目
栄養アセスメント・栄養ケア計画書(施設版)
*食事調査は利用者の共有個別資料とする。
(但し、持ち出し禁止、厳守)
②低栄養状態の改善として、栄養計画による
・食事・栄養管理、評価判定を行う。
・低栄養状態の改善目標として、栄養強化食品を推奨する。(但し、個別管理品は個別負担とする。)
③看取り(EOL食 I、II、III期)暫定措置(案)として策定 R4.2月

本年度の経緯と考察

①教育研修計画
・栄養ケアシステムの向上
②所轄保健所の巡回指導実施
③グリーンヒル(CK)とグリーンヒル八千代台(SK)の給食はデリバリー方式、グリーンヒル八千代台
・調理ナーム給食(小規模多機能 アフアイト グリーンヒル南テイクホーム)
(R4.5月座1F)
方式(CK)(SK)との業務は分離独自型
供食対象:利用者食・職員食
・グリーンヒル南テイクホーム
グリーンヒルから グリーンヒル八千代台へ移管
④施設管理栄養士のシフト体制
⑤給食栄養利用者向け広報誌発行
⑥臨地実習実施

・利用者全員の看護、介護、栄養の専門性の連携・情報の共有を図つた
・給食栄養管理の改正に伴う帳票管理 巡回指導の指摘なし
・給食経営管理部門として一全面委託化、クックチル方式 業務委託、食材料費委託
及び院外調理(ひまわり)を導入した小規模多機能クサーブ方式
・CKグリーンヒルのイベント、栄養委員会など
グリーンヒル八千代台(SK)と連携・提携区分、分離区分を共有化した
※CK=セントラルキッチン SK=サテライトキッチン
・グリーンヒル 8:30～17:30(2名)9:00～16:30(1名)
・グリーンヒル八千代台 8:30～17:30(1名)
“食&栄養”おいしいお知らせ 4回/年
聖徳大学人間栄養学部 3学年 6名(10月)

以上

令和3年度 グリーンヒル居宅介護支援事業所 事業報告

目標に対して稼働件数

- ・計画作成数・・・給付管理件数 124.7名（月平均）
- 総合事業委託請求件数 22.8名（月平均）
- ・目標稼働率・・・101.0%と達成。

主任ケアマネ2名要していることもあり、処遇困難ケース依頼は多くあり、その事例検討を通して事業所ケアマネのスキルアップに繋がっている。

事業継続計画（BCP）について

取掛かりは策定できたが、掘り下げは出来ていない。来年度の課題となる。

情報共有及びスキルアップについて

地域のケアマネのスキルアップとして他事業所との合同事例検討会を開催。外部のオンライン研修への参加にも慣れ、コロナが出現した令和2年以前より参加数が増えている。

—総括—

令和3年4月の介護保険改正で 逡減制の見直しが行われ事務職員の配置により、取り扱い件数ケアマネ一人当たり45件を超えた部分からとなった。以前は40件を超えると減算となるため、受託できなかったが、超えても減算とならないため、急な依頼等受けやすくなった。その上、以前から国保連への請求等を担当していた事務職員が正式に居宅の事務も兼ね丁寧に行ってくれることで、各ケアマネも自身の担当ケースに、より専念できるようになった。

スキルアップについては、オンライン研修が増え、参加しやすくなった事で（医療との連携について）（虐待について）等一層勉強となっている。

反省としては、BCP作成が、他の業務に追われ遅々として進んでいないため、4年度の課題として取り組みたい。

令和3年度 通所介護事業報告

令和3年度利用状況（本体通所介護）

今年度も、一日平均利用者数26名を目標にサービスを行ってまいりましたが、今年度に関しましては一日平均22.7名と前年度より1.3名のマイナスとなってしまいました。一年間の延べ利用者数も、前年度より350人ほど減の結果となってしまい、今年の1月から3月にかけては、職員のコロナ感染などから利用者数の減少もあり、このような結果となってしまいました。また、コロナ禍の状況で、ご利用者の方の感染などはなく、ご利用いただいていたが、一年間で新規利用者が13名に対して、利用中止者が22名となり、登録人数もなかなか増やすことができませんでした。来年度については、本体の通所介護事業所のみの一か所になりますので、サービスの内容の再検討し、ご利用者を増やしていきたいと思っております

（サテライト南デイホーム）

南デイホームにつきましては、一日平均5名を目標にまいりましたが、一日の平均利用としては、前年度と同じ2.7名と増やす事が出来ず、前年度と同じ結果となってしまい、赤字の決算となってしまいました。

南デイホームに関しまして、現状を踏まえ協議いただき、現状事業所としての継続が厳しく今年度をもって、一旦廃止とさせていただきます。

ご協力をいただきました皆さんへ感謝申し上げます。今後は八千代台の支援事業として継続を予定。

令和4年度利用者人数目標 本体通所介護：一日平均26名

令和3年度 グリーンヒル デイサービス 実績報告

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年合計	年平均
登録人数	70	70	69	68	67	67	68	69	68	65	64	66	811.0	67.6
利用者数	61	66	66	65	62	62	63	67	66	61	60	63	762.0	63.5
新規利用者	2	2	0	0	1	1	2	2	1	0	0	2	13.0	1.1
登録中止利用者数	2	2	1	1	2	2	1	2	2	3	1	3	22.0	1.8
運営日	26	26	26	27	26	26	26	26	26	24	24	27	310.0	25.8
延べ人数	583	627	618	630	584	582	600	624	609	482	518	596	7,053.0	587.8
総合事業人数	4	5	5	5	5	5	4	4	4	4	3	3	51.0	4.3
													0.0	0.0
要介護人数	57	61	61	60	57	57	59	63	62	57	57	60	711.0	59.3
合計	61	66	66	65	62	62	63	67	66	61	60	63	762.0	63.5
平均介護度	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.1	2.0	2.1	2.1		2.1
1日平均利用者数(予算26人)	22.4	24.1	23.8	23.3	22.5	22.4	23.1	24.0	23.4	20.1	21.6	22.1		22.7
前年平均利用者数	22.7	22.0	22.8	24.5	23.8	24.8	25.5	25.3	25.3	24.6	23.2	23.0		24.0

介護度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年合計	年平均
要支援1	2	3	3	3	3	3	1	1	1	1	1	1	23	1.9
要支援2	2	2	2	2	2	2	3	3	3	3	2	2	28	2.3
要介護1	16	18	17	16	15	15	14	15	14	14	13	15	182	15.2
要介護2	26	27	27	27	25	24	27	30	30	29	29	27	328	27.3
要介護3	8	9	10	11	11	12	12	12	13	10	11	14	133	11.1
要介護4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36	3.0
要介護5	4	4	4	3	3	3	3	3	2	1	1	1	32	2.7
人数	61	66	66	65	62	62	63	67	66	61	60	63	762	63.5

令和3年度訪問介護事業報告

【1】令和3年度の状況

令和3年度は、月80人目標としていましたが、月60名前後の利用となりました。

前年同様、新規利用者の受け入れはしていましたが、訪問回数の多い方の利用終了が続いた事、終末期ケアでの訪問依頼が多く、短期利用の方が多かったことなどがあります。

登録ヘルパーの高齢化（登録ヘルパーの平均年齢69歳）により生活支援を多く受けており、身体介護については正職員でほとんどを回している為、利用人数を増やせない状況があります。

通院乗降担当の職員が8月から1名体制となり、受けられる件数にも限りがありました。

新型コロナウイルス対策については、PCR検査への協力依頼、ワクチン接種の為の時間調整や休日調整、マスクや衛生用品を可能な限り配布し、現場のヘルパーが困らないように対応しました。幸い、利用者・職員ともコロナ罹患者はありませんでした。

令和4年度の目標

今年度においても、出来るだけ新規ケースの受け入れを行っていきたいと考えています。今年度の目標値としては、月の目標を62名として職員全体で取り組んでいきたいと考えています。

ヘルパー年齢の高齢化もあり、事業継続のためには常勤・登録ヘルパーなどの採用をお願いしたいと思います。

毎月行っているヘルパー研修も、実技指導や講義の時間を多く取り、充実させていく予定です。

(別紙 1)

研修日時予定	研修内容
4月最終週	ヘルパー業務の区分と実際 ・基本サービスと個別サービス（身体介護、生活援助） 初回訪問手順、サービスに関するルール、記録の書き方 ・サービス提供にあたっての基本的事項 基本姿勢・行動指針・個人情報保護・接遇
5月最終週	感染症・食中毒予防マニュアル ・感染症とは ・感染症の種類 ・予防するには?? ・生活援助での食中毒予防のポイント
6月最終週	令和2年度事業計画について 法人内研修報告
7月最終週	認知症介護について ・認知症を理解するために ・認知症とは ・認知症介護のポイント ・具体的な対応方法
8月最終週	突然の事故・緊急対応時マニュアル ・おかしいと感じた場合の確認事項と対応 ・事業所の緊急時の体制について 応急処置、救命処置について
9月最終週	自然災害発生時の対応および事業継続計画について
10月最終週	新型コロナウイルス感染症発生時の対応および事業継続計画について
11月最終週	相談、苦情対応マニュアル ・相談対応について・苦情対応について 倫理規定について 鍵の管理、金銭管理について
12月最終週	インフルエンザ・ノロウイルス等感染症について ノロウイルス等の対処方法について（実技）
1月最終週	・事件事例、ヒヤリ・ハット事例の検討 ・苦情、相談事例の検討
2月最終週	自己評価
3月最終週	業務改善検討会議 マニュアルの見直し 事業計画達成

【令和3年度 事業報告】

特別養護老人ホーム グリーンヒル八千代台

短期入所生活介護 グリーンヒル八千代台

1. 目標稼働・目標施策（令和3年度）の達成状況（○数字はR3事業計画の原文）

①稼働率（長期＋短期）：長期入所者の安定稼働（入院者低減・空床期間短縮）。

・年間稼働率 99.6%目標（長期+短期：39床に対し 38.85名以上の稼働）

⇒【達成】月平均 38.87名（年間稼働率 99.71%）

・特定入所者受入（7名以下設定）

⇒【達成】年間平均 6.5名

②日常生活継続支援加算の算定継続（46単位/日）

⇒【達成】下記要件を算定根拠とし継続

・新規入所者の内（前12ヵ月）介護度4・5の割合：70%以上

…年平均 81.9%（長期入所者全体 年平均介護度 4.42）

・新規入所者の内（前12ヵ月）認知症度Ⅲ以上の割合：65%以上

…年平均 45.4%

③認知症専門ケア加算（Ⅱ）の算定継続（4単位/日）。

⇒【達成】認知症専門ケア加算該当者：24/29名 全体 82.8%（3月末時点）

④看取り介護加算の算定継続

⇒【達成】退所者5名中3名の看取り介護を実施。

⑤褥瘡マネジメント加算（13単位/月）・排せつ支援加算（15単位/月）の算定

⇒【達成】入所全利用者対象。LIFEを用いて報告を提出。

⑥栄養マネジメント強化加算（11単位/日）の算定また経口維持加算の算定継続

⇒【達成】入所全利用者対象。LIFEを用いて報告を提出。

⑦口腔衛生管理加算（Ⅰ）の算定（90単位/月）

⇒【達成】提携歯科との連携。LIFEを用いて報告を提出。

⑧個別機能訓練加算（Ⅱ）の算定（20単位/月）

⇒【達成】入所全利用者対象。LIFEを用いて報告を提出。

⑨短期入所生活介護の加算算定継続

⇒【達成】看護体制加算・認知症専門ケア加算・機能訓練体制加算（個別機能訓練）等

⑩サービス担当者会議及び多職種カンファレンスの強化継続。

⇒【達成】コロナ渦中、状態変化時を主にはあるがサービス担当者会議を開催。看取り介護の推進を図る等、加算の算定に繋げる。

外出の自粛等に伴い、各専門計画（介護・看護・機能・栄養計画）の見直しを図り実践した。利用者のADL維持に尽力する。

2. 今年度の実績

①介護職員等における健康管理

- ・コロナウイルス等感染症が流行する中、各々が健康管理に配慮し、施設内感染を防止。通常運営を継続することに努めることができた。

②入院者等低減による稼働率（長期＋短期）の安定

- ・利用者の健康管理（誤嚥性肺炎予防・尿路感染症予防等）またADL維持に尽力。入院者延べ日数の減少（406日→200日）もあり、稼働率の安定に繋げることができた。

③各計画書の運用/加算算定への取り組み

- ・LIFE（評価）を活用し個別計画を見直し作成。評価内容を根拠に対応方法の明確化に近づけることができた。

④地域貢献

- ・地域活動サークルまた近隣教育機関等に向けて専門職を派遣。地域との関係性維持に努めることができた。

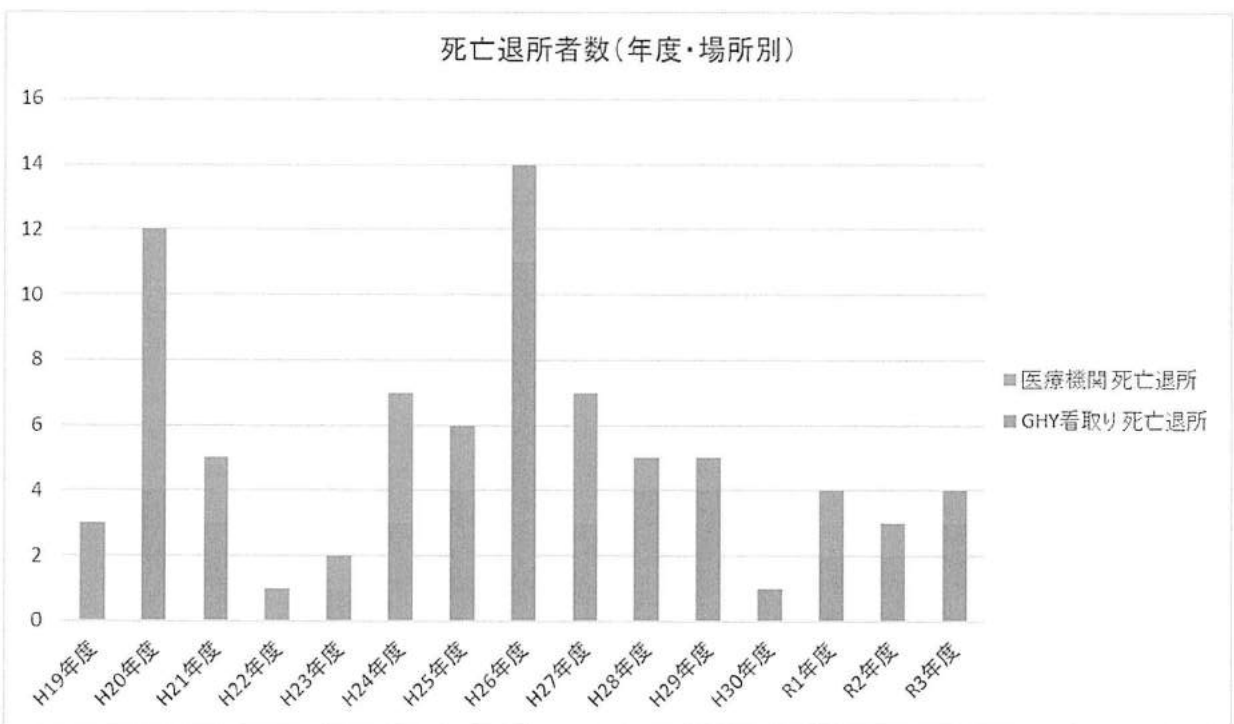
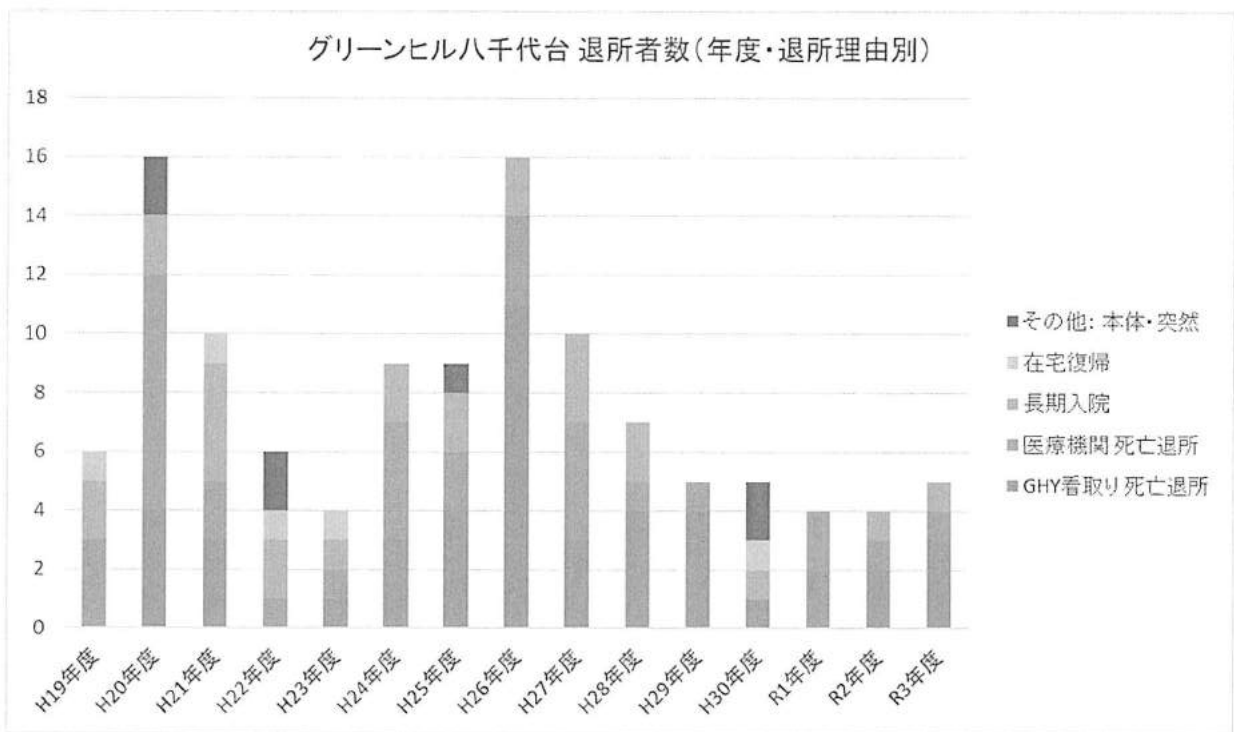
3. 令和3年度 特養・短期の実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年
月末利用登録者	29	28	29	29	29	29	29	29	29	28	28	29	28.75
入所延日数	869	867	868	899	899	870	899	870	899	874	776	877	10467
入院延日数	63	23	45	20	18	0	0	0	0	0	0	31	200
利用実日数	806	844	823	879	881	870	899	870	899	874	776	846	10267
平均介護度	4.5	4.5	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.42
(介護度4・5割合)70%	96.5%	96.4%	93.3%	93.1%	93.1%	93.1%	93.1%	93.1%	93.1%	92.9%	92.8%	92.9%	93.6%
新規入所者数	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	5
(内介護度4以上)	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	4
(内認知度Ⅲ以上)	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	3
退所者数	1	2	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	5
負担限度額認定者	7	7	7	7	6	6	6	6	6	6	7	7	6.50
短期請求件数	23	20	22	21	22	23	20	19	19	18	19	21	20.58
短期入所延日数	366	365	311	331	341	303	310	302	310	310	316	357	3922
特養・短期合計延日数	1,172	1,210	1,134	1,210	1,222	1,173	1,209	1,172	1,209	1,184	1,092	1,203	14,190
特養・短期1日平均数	39.07	39.00	37.80	39.03	39.41	39.10	39.00	39.07	39.00	38.19	39.00	38.80	38.87
稼働率	100.2%	100.0%	96.9%	100.1%	101.1%	100.2%	100.0%	100.2%	100.0%	97.9%	100.0%	99.5%	99.71%

【資料】

『令和3年度理由別退所者数（看取り介護等の履歴（開設当初より））』

	GHY看取り 死亡退所	医療機関 死亡退所	長期入院	在宅復帰	その他: 本体・突然	合計			
H19年度	0	3	2	1	0	6	H19.10.1	～	H20.3.31
H20年度	4	8	2	0	2	16	H20.4.1	～	H21.3.31
H21年度	3	2	4	1	0	10	H21.4.1	～	H22.3.31
H22年度	0	1	2	1	2	6	H22.4.1	～	H23.3.31
H23年度	1	1	1	1	0	4	H23.4.1	～	H24.3.31
H24年度	3	4	2	0	0	9	H24.4.1	～	H25.3.31
H25年度	4	2	2	0	1	9	H25.4.1	～	H26.3.31
H26年度	11	3	2	0	0	16	H26.4.1	～	H27.3.31
H27年度	3	4	3	0	0	10	H27.4.1	～	H28.3.31
H28年度	4	1	2	0	0	7	H28.4.1	～	H29.3.31
H29年度	4	1	0	0	0	5	H29.4.1	～	H30.3.31
H30年度	1	0	1	1	2	5	H30.4.1	～	H31.3.31
R1年度	2	2	0	0	0	4	H31.4.1	～	R2.3.31
R2年度	2	1	1	0	0	4	R2.4.1	～	R3.3.31
R3年度	3	1	1	0	0	5	R3.4.1	～	R4.3.31



4. 次年度の課題

以下3点を課題として取り上げ、目標として継続また発展へ取り組みたい。

① 稼働率(長期+短期): 入所者の安定稼働(入院者数低減・空床期間短縮)

- ・誤嚥性肺炎防止(口腔ケア・嚥下評価等)、脱水・尿路感染症に対する配慮(飲水・清潔保持)に努め、入院者数の低減に努める。

② 感染症防止への取り組み

- ・感染症における標準予防策を徹底。各職員が引き続き健康管理に意識を向け、通常運営の継続に努める。万が一感染症が発生した場合、拡大防止に必要とされる対応策を迅速に実践できるよう、各職員がその方法を周知する。

③ 面会の実施

- ・対面面会、ZOOM面会等、感染症状況に応じた面会制限の緩和を随時図ることにより、入居者のADL(認知面・精神面)維持に働きかける。

以上

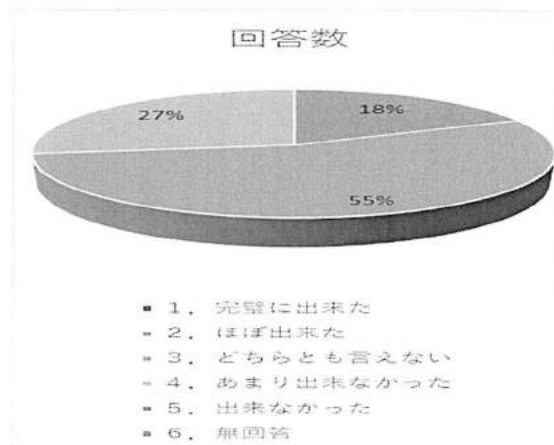
【 日常の楽しみ 】

I. 介護理念

「ご利用者の気持ちに寄り添うケアを実施します」

- ・ニーズ（要望）が明確な方には、把握しケアを行いやすかったが、表現できなかつたり訴えにくかつたり様々なケースで要望を把握して差し上げられなかつたことも多かつた。
- ・食べたい物を訴えてくれている方にたいして、もう少し実現させてあげたかつた。
- ・1人1人には寄り添えてないと思う。話せる人にしか行えていなかつた。ジェスチャーや目の訴えなどに気付き行動はしたが本意なのかはわからない。
- ・来年度は出来るだけ「出来ない」を減らし1人1人へのアプローチを頑張る。
- ・自ら訴えられるご利用者には、なるべく気持ちに寄り添ったケアをするよう考え、提案し工夫するよう心掛けた。気持ちを訴える事が難しいご利用者へは、表情や行動を見て寄り添うように心掛けたが難しく実践できないことが多かつた。
- ・ご利用者に合わせて話しをしながらケアを行う事を第一に考え実践していた。
- ・まずはニーズ（要望）を把握する機会が日々のコミュニケーションの中だけであつた為、実際、施設（GHY）に来て、どう過ごしたいのか？何が望みなのか？本人及び家族の気持ちを汲み取る事が出来なかつた。特に SS・多機能の利用者へのアプローチが足りないと感じた。
- ・利用者様の ADL 低下が顕著であり、以前よりケアを必要とされる方が増えている。その為、全ての利用者に対応できず「無理」「出来ない」との意見が上がる事もあつた。
※転倒リスクより常時見守りを要する方が多く利用されていたので…。
- ・事前面接での聞き取り後、施設利用中の要望を聞き取る事も大切だと感じた。

選択肢	回答数
1. 完璧に出来た	
2. ほぼ出来た	2
3. どちらとも言えない	6
4. あまり出来なかつた	3
5. 出来なかつた	
6. 無回答	

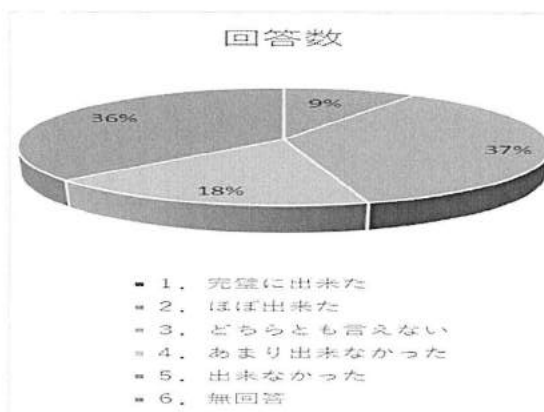


II. ケアの重点項目

1、【面会・外出の充実】

- ・オンラインでの面会は施設において行われていたが、各ご利用者様やご家族様に満足して頂けたかわからない。「行きたい所」「行きたい所」にはコロナ対応の為、ほとんど企画できていなかったように思う。
- ・「買い物に行きたい」との要望があったが、外出が難しく出来なかった。
- ・コロナにより活動が大きく狭まり出来ていなかった。
- ・ご家族へのアプローチは企画（誕生日）以外、行えていない。その他の企画も外出を行う事が出来ていなかった。コロナが落ち着いたら外出を行いたい。
- ・ご家族とは、誕生日でも会えなくなってしまうているが、落ち着くまでは仕方ないと思う。その分、日々の様子をもう少し定期的にお知らせできる「メッセージカード」や「写真」などあれば家族も安心できると思う。
- ・家族と会える時は会い、本人が行きたい場所は行く、という時間を大切に行った。
- ・施設側からのアプローチが足りないと感じる。オンラインでの面会も定期的に利用する家族は決まってしまうていた。遠方の方や、普段来られない方へ、もっとアプローチしていくべきと思う。
- ・外出に関しては、花見や駐車場の散歩程度しかできなかった。今後も外出の出来ない環境が続くと思われるので、施設内でも利用者様に満足して頂けるように、感染予防対策をしっかりと行った上で、出来る事を工夫して提供していくように来年度は頑張ってみたい。

選択肢	回答数
1. 完璧に出来た	
2. ほぼ出来た	1
3. どちらとも言えない	4
4. あまり出来なかった	2
5. 出来なかった	4
6. 無回答	



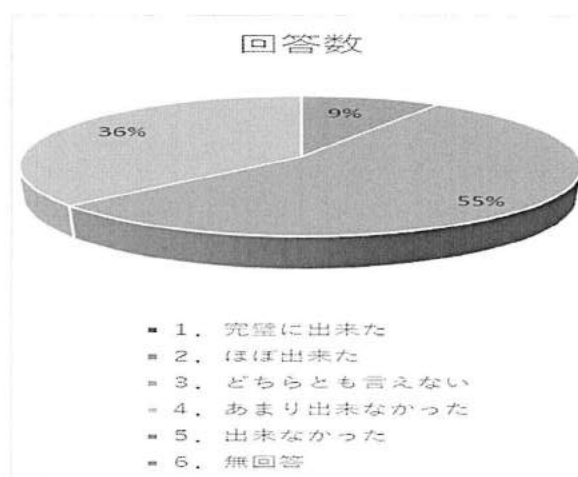
〈面会実績〉

氏名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月		12月		1月		2月		3月	
								回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数
椿百合子							1										
尾崎照代										1	2						
木村信彦								2	2	1	1						
土田ユミ子	4	4	5	4	4	4	3	6	5	4	4						
長島久代								1	2								
廣瀬光子							3			1	2						
野永満子		1	1	1				1	1	1	1	1	2				
井上富美子	2	1	1	1				3	3	3	5						
藤代あい子						1	1	1	2	2	2	1	1				
星野敬子										1	1						
西口奈津子																	
加藤愛子							1			1	2						
景山節子																	
城山カネ																	
満島清子								1	2	1	2						
荒井淳子	4	5	4	4	4	3	5	6	8	5	6	1	1				
松尾操	1	1					2	1	2	1	1						
秋庭徳一郎																	
加賀美裕子	5																
合計	16	13	11	10	8	8	16	22	27	22	29	3	4	0	0	0	0

2、【自立支援と事故防止】

- ・ヒヤリハット、事故報告ともに会議で報告もあり、又、職員の意見も聞き対応策を再考して再発防止に努めていた。
- ・気になる事、分からない事など今年度自分なりに相談することが出来た。
- ・ヒヤリハットや事故報告書はしっかりと確認し、同じ事が起きないように、頭に入れていたがデータの分析等は特に気にしていなかった。
- ・自立支援は個々に行えている。過度な介護は行っていない。ヒヤリ、事故に関しては分析まで行えていなかった。
- ・皮下出血が出来た場所によって、どうして出来たのか？の想像が出来なかった。
- ・事故が続いてしまった利用者がいた。
- ・ヒヤリハット、及び事故報告書には目を通し分析とケアの検討、シュミレーション等を行うようにした。人間なのでヒューマンエラーも起こしてしまう事があるが、ヒヤリハットとして挙げていく事で、チームとして再確認していく事が大切だと思った。
- ・多職種との協議は良く行われていたように思うが、多くの時間をとってお互いに正直な意見を話合えていたかはよくわからない。
- ・事故を「ゼロ」にすることは不可能である。が、リスクマネジメント委員会を中心に、施設全体で事故防止への意識は変わったと思う。今年度から、新委員会を作り今まで行ってこなかった評価・ケア検討の部分が他職員へも周知できたと思う。今後は意識が薄くなる事が予想されるので、気を引き締め、現状に満足することなく今後も利用者様の為に尽力していきたいと思えます。
- ・残存機能の維持、出来る事は利用者様に行って頂いている。理学療法士を中心に、チームケアが実践できていたと思えます。

選択肢	回答数
1. 完璧に出来た	
2. ほぼ出来た	1
3. どちらとも言えない	6
4. あまり出来なかった	4
5. 出来なかった	
6. 無回答	



〈令和2年度実績〉

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	合計
ヒヤリハット	11	12	5	15	13	12	7	6	6	10	9	9	115
事故報告	4	6	5	5	7	5	1	6	3	1	1	2	46

〈令和3年度実績〉

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	合計
ヒヤリハット	9	4	8	11	16	15	8	6	3	3	6	6	95
事故報告	10	3	0	3	6	0	4	1	7	3	3	2	42

3、【ケアの質向上】

- ・研修で学んだ事は、自己研鑽ファイルを活用し、他職員も学べる環境が出来ていた。
- ・ケアプラン、介護計画書など各書類を見直す中で、気付ける事もあったので良かった。
- ・研修で学んだことを自施設でも実施してみたが、自分の中で完結してしまい、他職員への伝達が出来ていなかった。
- ・介護計画書、24時間シートも実施で止まってしまっている事が多く、評価・検討が更新の時期にしか行えていなかった。
- ・研修はしっかり聞き、頭で覚えるように努力した。
- ・ケアプランがなげやりになってしまった。
- ・その方に合った事は考えてはいたが、なかなか実現しきれなかった。
- ・介護計画書、24時間シートの見直しを都度行えていなかった。業務時間内で行う事も難しかった。
- ・積極的に新しい事を学ぶというよりは、現状維持な1年だった。
- ・毎月のユニット会議での研修が開催できなかったが、個々に研修参加があり、研修内容をフィードバックすることでチームのケア向上が図れたと思う。
- ・ケアプラン、24時間シート、介護計画書、排泄支援計画書に関する指導が至らず、理解している職員が少ないことが課題として残る。

選択肢	回答数
1. 完璧に出来た	
2. ほぼ出来た	2
3. どちらとも言えない	7
4. あまり出来なかった	1
5. 出来なかった	1
6. 無回答	



Ⅲ. チーム目標

- ・ 仕事中に職員同士の意見を言い合う事で、他人が何を考えているのかを理解しやすいと思った。
- ・ ご利用者のプライバシーに配慮出来ていない部分を見かけても、なかなか注意することが出来なかった。
- ・ いい関係性を作れていると思うが、リーダーからの伝達不足が目立ったと思う。
- ・ 大きな声で職員を呼ぶ事をやめて頂きたい。
- ・ 必要以上の内線は PHS を活用してほしい。
- ・ チームとして周りの職員に支えられた 1 年だった。大変な時は、それを伝えることが出来、また支えてもらった。どんな時も感謝を忘れずに仕事をしていきたいと思えた。
- ・ プライバシーに配慮は行えていたと思うが、引き続き気を付けていきたい。個々の職員で、どの程度まで配慮するのか？認識に差がある気がした。
- ・ 整理整頓等に、あまり時間をとれず、最低限となってしまった。
- ・ 職員同士が注意しあえる環境ではなかった。その事で入居者様に被害（不適切ケア）が出てしまった場面もある。
- ・ 「排便でた」「おしっこ出た」と発言する職員が、まだいる。施設での統一した隠語などを使ってみてはいかがでしょうか？ Hr（排尿）Kot（排便）等

選択肢	回答数
1. 完璧に出来た	1
2. ほぼ出来た	3
3. どちらとも言えない	6
4. あまり出来なかった	3
5. 出来なかった	1
6. 無回答	



以上

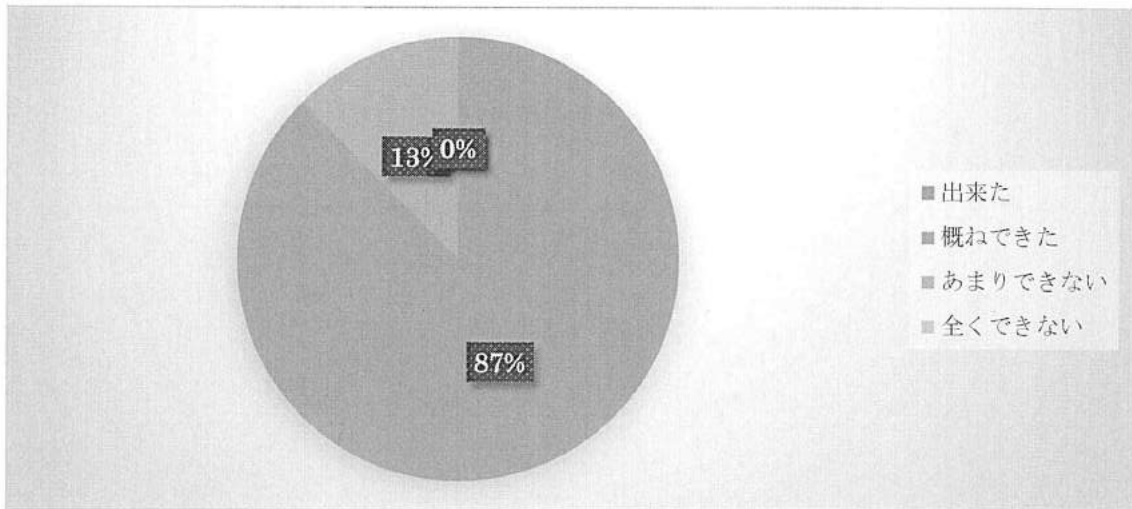
令和3年度

3階（新川ユニット・梨の花ユニット） 理念の反省

【ふれ愛】～ご利用者・ご家族・季節に触れ合う～

I. 介護理念

「ご利用者・ご家族・職員が笑顔になるために優しい気持ちでケアをします」



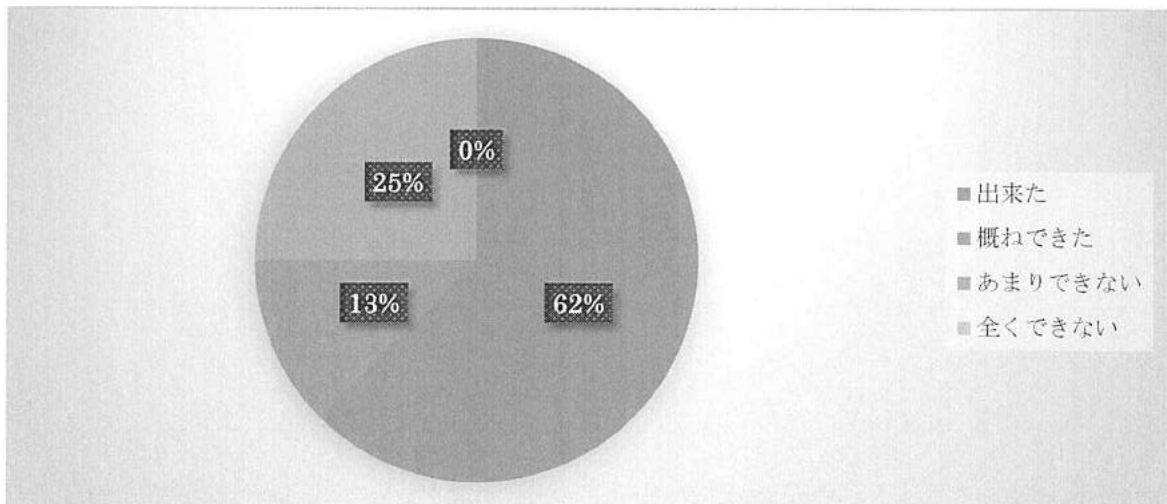
振り返り・反省点

- ・感染症対策のため、季節や家族とのふれ合いが十分に出来たとはいえないと思います。
- ・外出・面会制限等の制約の中では各職員が努力はしたと評価します。
- ・利用者、職員同士に対して笑顔で接する様に心がけた。
- ・ご利用者が笑顔になるよう、声かけや表情等を工夫した。
- ・ご利用者の機嫌を損ねないように努力した。
- ・業務に追われ心の余裕を持っていない時もあった。

II. ケアの重点目標

1、【刺激のある生活】

- ・毎月、季節に沿った食事の提供また外出をして刺激のある生活を過ごして頂けるようにしていきます。（お楽しみ会・イベント企画）
- ・ご家族との面会時は、制限があるなかでも様々な工夫をしてご利用者・ご家族に安心して生活して頂けるよう努めます。

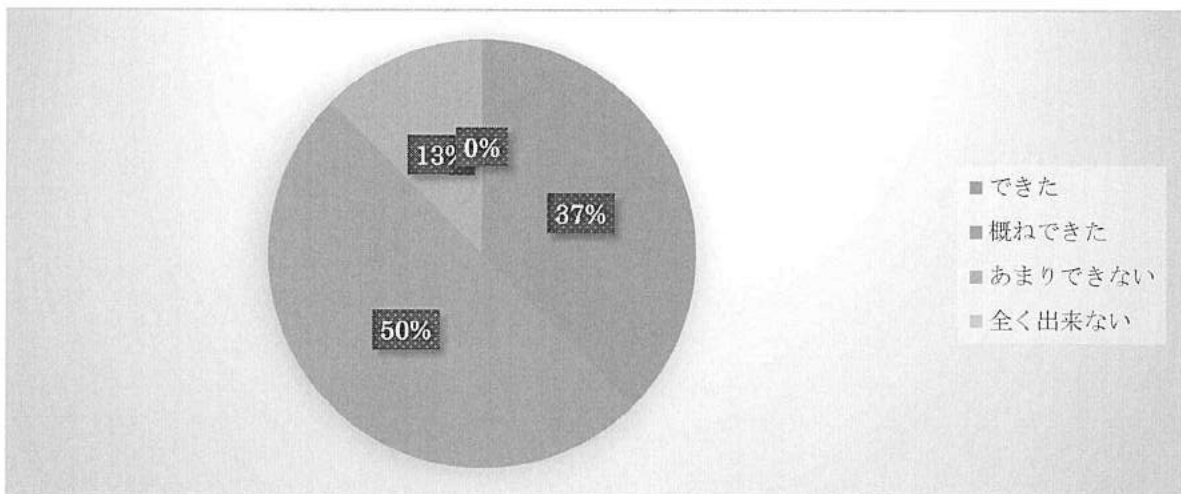


振り返り・反省点

- ・面会方法等、工夫の余地があったと思います。
- ・毎月実施する企画（お楽しみ会・イベント食）は楽しんでもらえたと思います。
- ・ご家族に対して、写真の送付、ZOOMでの状態報告、ベランダからのお見送りを行うことができた。
- ・様々な企画行事（毎月の企画＋三大行事）を工夫して行うことができた。
- ・ご利用者に毎日を穏やかに過ごして頂く為、丁寧なケアを心がけました。
- ・日々の声かけで外の様子や天気や花の事を伝えるようにしました。
- ・短時間での面会やソーシャルディスタンスを保った対面面会等を工夫をして行う事ができた。

2、【介護計画書・事故防止】

- ・介護計画やケアプラン等を職員全員で見直し、全員で考える事でケアの統一化を図ります。
- ・「ヒヤリはっと報告書」「事故報告書」を活用し、リスクマネジメント委員会を中心に検討し、事故の再発防止に努めていきます。

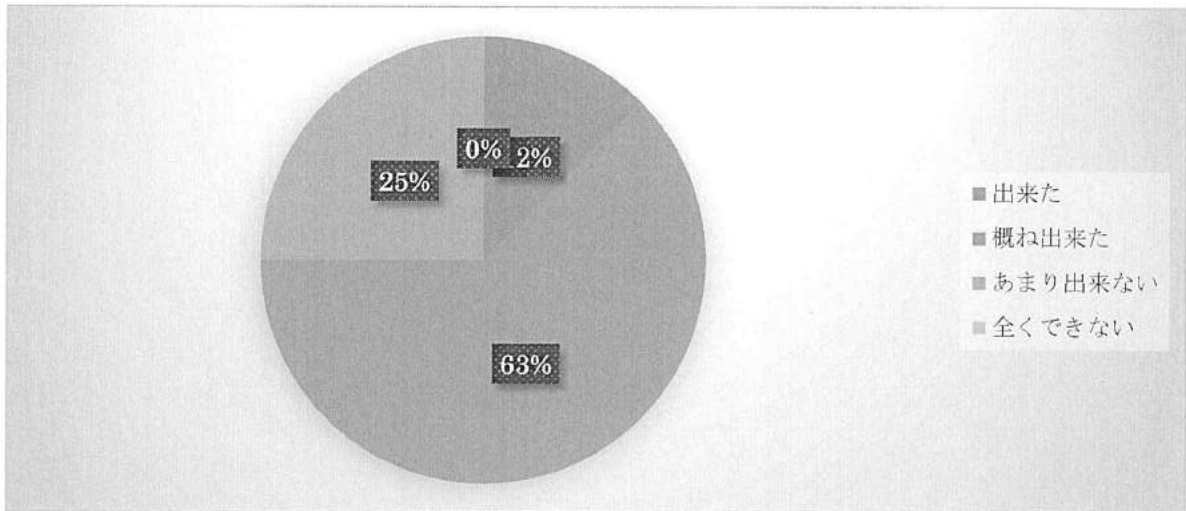


振り返り・反省点

- ・リスクマネジメント委員会を中心に再発防止策を会議でしっかり話し合うことができた。また、統一もできたと思う。
- ・再発防止に努めることができた。
- ・皮下出血を発見した際は、その都度ヒヤリハットをあげています。原因、再発防止についても他職員の意見も聞きながら考察するようにしました。
- ・報告書を活用し、職員同士で声を掛け合い、再発防止に努めることができたと思います。
- ・職員皆で意見を出し合い、リスク軽減に努めることができた。
- ・ケア方法・リスク・事故情報等の共有についてはまだ充分ではないと思います。ひやりはっと報告については、本来の趣旨とずれてしまっていると思います。

3、【生活環境】

- ・日々の生活を気持ちよく過ごして頂く為に、居室に入った際は居室内を見渡し、必ず整理・整頓し綺麗にしてから退室します。
- ・衣類が汚れたら直ぐ着替え、爪を整える、お顔まわり（髪の毛や目やに・髭等）は常に美しく見えるように、ご利用者の身だしなみに気を配ります。

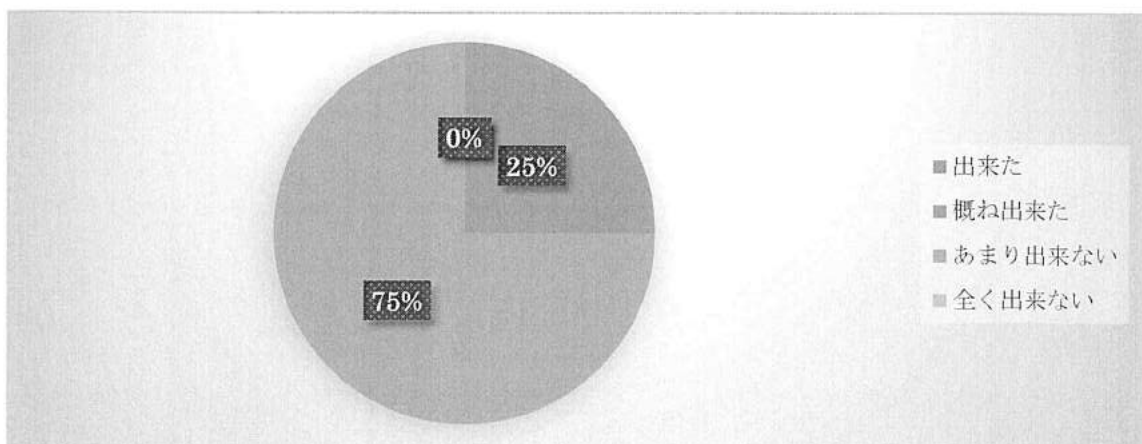


振り返り・反省点

- ・整頓は心掛けました。起床時以外も身だしなみは気かけました。
- ・身だしなみに気を配ることができた(起床時・離床時に整容に努めました)。
- ・タンスの中が乱れていたならその都度直しました。
- ・起床時・離床時に整容に努めました。
- ・ご利用者の身だしなみも配るよう日々心がけた。
- ・居室内の布団（横シート）や洗面台などを綺麗にするよう心がけた。
- ・戸締りやカーテンを開け閉めは良く行っていたが、ベッドや居室はあまり行っていないかった。
- ・居室の整理については心がけているが自信が無い。
- ・整容について心がけているが自信がない。

Ⅲ. チーム目標

- ・毎月のユニット会議で短時間の勉強会を開き、介護における知識を増やしていきます。
- ・職員一人ひとりを大切にお互いが成長できるようにコミュニケーションを図ります。



振り返り・反省点

- ・会議でしっかり話し合いが行われていた。
- ・コミュニケーションは取れていると思うが成長につながったかは分からない。
- ・ユニット会議内で勉強の時間はとれなかったが、全体会議の研修やオンライン動画など研修の機会が多くありました。
- ・感染症の流行で様々な制限がありましたが、楽しく仕事をすることができました。
- ・職員間のコミュニケーションをできるだけとるように心掛けましたが、難しい時もありました。
- ・職員同士のコミュニケーションはよく図れたように思います。
- ・自分から介護の知識に対して勉強をすることはしなかったです。

以上

グリーンヒル八千代台医務課 事業報告

今年度は新規入所者が5名に対し退所者も5名。退所者の内訳として、看取りで永眠された方が3名、医療機関入院中に永眠された方が1名、長期入院で退所された方が1名でした。入院者数はのべ10名で、1名の方が年間3度の入院となりました。入院者全体を通し、入院の要因となった診断は尿路感染症（膀胱炎含）が主でした。

看取り期に移行する際、「最期を迎える場所を、グリーンヒル八千代台で」と希望されるご家族も多く、看取りケアの充実として、家族を含めた他職種との協働の重要性を考える1年でした。来年度も、利用者本人と家族の望む人生・生活に視点を当て、話し合いの機会を作って行きたいと思えます。

次に、年間を通して全利用者の褥瘡発生は無かったものの、90歳台の利用者を中心に皮膚の脆弱化による皮下出血やスキンテア（皮膚裂傷）が見受けられました。（ヒヤリハット報告へ記載）

上記より、皮膚ケアの見直しを行いました。具体的に日常における皮膚の乾燥対策、入浴後のボディークリームを選定、衣服・下着の考慮等の他職種カンファレンスを行いました。皮膚の改善は瞬時に結果が出るものではないという事を痛感しましたが、今後も他職種で前年度に行ってきたことを継続し、利用者の方々が痛み無く快適な生活を送れるよう、更に努めて行こうと考えます。

感染症に関しては、新型コロナウイルス感染が職員で何件かありましたが、施設内での発生はありませんでした。利用者・職員で、新型コロナワクチン接種を大半の人が接種できたことも大きかったと言えます。また、PCR検査でも、ほぼ全員が毎回陰性でした。これは、スタッフ全員が、マスク・手洗い・換気・人との距離等の感染対策の意識向上であると評価します。その他の感染症に関しても、発生は見受けられず、感染対策の徹底がなされた結果であると思えます。感染対策を継続し、来年度も上記を重要事項として、実践していきます。

最後に、看護理念として掲げている他職種との協働・情報の共有、安全安心な看護、介護の提供し、生活の質の向上を医務課では重要達成目標を定め具体策を医務スタッフで話し合い、実践しました。以下の通りです

【令和3年度医務課実施達成事項】

1. 医務課内にある利用者カルテの見直しと再編成
2. 医師の指示書の再作成とスタッフ間での再確認
3. スタッフ間で、情報共有不足改善のため、ツールとして医務課ファイルの作成と実行
4. リーダー役割の強化（その日のリーダーを中心とし、他職種との情報共有を図る）
5. 合同会議でのターミナルケアについての学習発表
6. 医務課内での、業務管理についての問題の抽出（酸素やAED等の管理を今後詰める）
7. 利用者の終末期ケアについての事前確認（毎年実施とする）
8. 短期入所利用者に対して、ご家族と共に情報共有を図る為、申し送り用紙を作成し、使用開始前頁にある事項を行ったことで、医務課内での情報の共有化は、「あの人がいないと解らない」「知らない」というようなことが減少しました。また、スタッフ全員が情報を自ら持ち、それを他者に伝達する為に、積極的に情報ツールの使用や、日常的な情報交換を心掛け、「情報を得る・伝播する事」への責任感の向上にも繋がったと評価します。

また、ターミナルケアの学習発表では、看護師が臨床で経験した体験と習得した知識の伝播が出来た

と考えます。今後は更に、その学習した内容を踏まえて、他職種と話し合う機会を持ち、利用者にとって「より良い人生とは」を具体的に考えて行きたいと思えます。(担当者会議の実施の継続)

今年度はリスクマネジメント委員会の発足により、ヒヤリハットや事故に対しての意識が向上したことを強く感じました。医務課内でも配薬のミスによる報告が数件挙がり、その都度話し合いの場を設けてきました。ミスを撲滅するためには、具体的な実施策と時間がかかりますが、スタッフが問題に対して真摯に向き合い、ミスを防止するために「具体的に実施できること」を話し合えたのではないかと評価します(令和4年4月は配薬ミスが0件となりました)。今後も、この姿勢を守りミスの撲滅に努めていきます。

資 料

第1表 入院者数の推移(前年度比)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	延人数	延日数	入院⇒永眠	入院3ヶ月越
R2年度		1	2	3	3	3	1	0	3	2	2	3	3	26	406	1	
R3年度	入院	4	2	4	1	1	0	0	0	0	0	1	1	14	200	2	
	長期入院	1															1

第2表 令和3年度入院者一覧

	入居者氏名	入院日	退院・(死亡)日	病 院	入院診断名	備 考
1	■■■■■	R3.3.18	R3.5.19	最成病院	脱水	死亡退所
2	■■■■■	R3.3.26	R3.4.11	セントマーガレット	腸閉塞	長期入院(退所)
3	■■■■■	R3.4.5	R3.4.25	勝田台病院	肺炎/腎盂腎炎	
4	■■■■■	R3.4.8	R3.4.13	勝田台病院	脳梗塞疑い	
5	■■■■■	R3.5.28	R3.6.1	勝田台病院	肺炎	
6	■■■■■	R3.6.3	R3.6.28	セントマーガレット	尿路感染症	
7	■■■■■	R3.6.15	R3.7.21	最成病院	左大腿部蜂窩織炎	
8	■■■■■	R3.6.21	R3.6.28	セントマーガレット	膀胱炎疑い	
9	■■■■■	R3.8.12	R3.8.31	セントマーガレット	膀胱炎疑い	
10	■■■■■	R3.2.28	R4.4.2	島田台総合病院	肺炎/尿路感染症	死亡退所

令和3年度事業報告書グリーンヒル八千代台居宅介護支援

1.目標稼働

- ・計画作成者数・・・要介護請求件数 月平均 89.5 件
要支援請求件数 月平均 18.7 件
- ・その他加算等あり

2.令和3年度総括

- ・本年度は昨年度に増して、新型コロナウイルスの影響を大きく受け、事業所の休止や、利用者・家族の感染により緊急的なプラン変更が必要な事がありました。そのような中で、職員自体も感染に留意しながら新規ケースは積極的に受託して参りました。
- ・毎週1回居宅内での会議を行っており、情報共有と共に各々のスキルアップや担当ケアマネの孤立防止を図っています。
- ・他法人との事例検討会につきまして令和3年度は、セントマーガレット病院居宅、ユーカリ優都苑、ユーカリ勝田台、志津ユーカリ苑、(グリーンヒル上高野居宅)と合同開催し、その後の支援に生かしました。
その他、上高野の居宅とは定期的に合同会議を行っており、令和3年度は環境に注意しながら6月・9月・12月と3回事例検討及び合同会議を行いました。
- ・近年オンライン研修の比率が増えておりオンラインのみでも23種類の研修を受け、スキルアップを図りました。
- ・他部署とも連携を図り、施設内全体に関する事(来客対応・会場準備手伝い・PCR検査の持ち込み等)を行いました。
- ・年度末に千葉県の助成金により、居宅用タブレット端末が配布されました。これにより外出先での入力・情報の参照が可能となりました。今後、この通信機器を用い業務の正確化・効率化を図っていく事が課題となっています。

グリーンヒル八千代台 小規模多機能型居宅介護 【令和3年度 事業報告】

1. 目標

令和3年度の小規模多機能については、目標値である28名登録以上については、年間平均29名(稼働率100%)、平均介護度2.7となり、目標であった平均稼働率98%・介護度2.5をとともに大きくクリアすることができた。新型コロナウイルスによる在宅サービスが中止になる方も多く、泊まり・通いのサービスが難しくても訪問により在宅生活を継続して支援することができる小規模多機能型居宅介護に、他の在宅サービスからの変更希望が増えたことにより目標を達成することができた。看取りを支援するケースは1件(看取り加算)あり、地域包括ケアの一端を担うことができました。人材確保については法人本部・八千代台(特養・SS・居宅介護支援・訪問介護・栄養課・キッズルーム)上高野(特養・SS・通所介護・居宅介護支援など)や勝田台地域包括支援センターとの連携・協働し、コロナ禍が続く中で価値観の多様化から双方の思い、期待の確認など募集から採用判断までの過程を一つずつ見直し、育成・定着に向け確実に段階を踏める体制を構築したい。有休取得は感染症対策の一環での取得の向上している。

2. 内容

WEB研修の導入も定着してきており、介護力・知識の向上が図れた。また、コロナ禍の影響で職員一人一人協力することで団結力ができ介護現場の実践による、やりがい・モチベーションの向上につなげることができた。

今年度は、同じコロナ禍でもオンラインの活用や時間や人数を制限しての交流という形式も行なう事が出来ましたが、事業所内の環境作りや季節感のあるプログラムの提供が感染症対策を実行しながらになるため、その環境作りとの両立が模索しながらの取り組みとなってしまったが、コロナ禍による生活様式等の変更に伴うストレス軽減化として、介護機器(コミュニケーションロボット)を導入により利用者だけでなく職員の癒しの存在となっている。今後も続くコロナ禍の中で、どう実践していくかを来年度も検討しながら継続して取り組んでいき、ICTの活用を進め、職員間での意見交換もしっかり行ない、連絡・報告・相談を基本に、サービスの質の向上と業務効率・生産性の向上に取り組むことができた。

3. サービス提供について

新型コロナウイルスの影響により、各種行事は中止になり、地域の方々との交流も少なくなりましたが、日々の中では近隣の方や馴染みのお店などのご協力、ご支援をいただき、ご利用者の生活が支援出来ました。災害対策について、BCPの策定を行ない防災倉庫の確認やそれについての研修などを実施、職員全体の防災についての意識も高まっている。福祉避難所として、地域の方々にもご参加いただける訓練の実施に向けて、防火管理者を中心とし、他部署とも情報を共有して防災・減災について協力できる体制構築をしていきたい。

小規模多機能型居宅介護サテライト グリーンヒル勝田台 【令和3年度 事業報告】

1. 目標

令和3年度のサテライトについては、平均介護度2（2年度より0.2上昇）体調等の安定により、年間平均登録者12名・年間平均稼働率100%という結果を2年度同様に継続することができた。新型コロナウイルスの影響により、他社の在宅サービス利用者は、閉鎖や一時休止し在宅でのサービスが受けられない状況の中で、泊まり・通いのサービスが難しくても訪問により在宅生活を継続して支援することができるサービスとして刮目されることにより、利用希望の方々が増え稼働率を100%にする事ができた。人材育成において、理念、方針、ルール、基礎知識、技術伝達等の浸透を図っているが対面でのコミュニケーションではない事が多いので表情やニュアンスなどが読み取りにくいなどの問題もあり、法人本部とも協力して動画マニュアル等の作成及び研修など過去・現在・未来の融合した人材育成の体制を構築したい。

2. 内容

ICT 関連機器の定着・活用はここ何年かで進めてきているプロジェクトであり、業務の振分け・時間の見直しなど改善ポイントと要素を認識し、会議や研修はリモートで参加することができ、研修では内部・外部研修に参加することができ職員のスキルアップに繋がってきている。また、LINEWORKS 活用・ZOOM 等の活用を行うことで、本部(八千代台)・他部署と連携・情報の共有など多職種連携など継続することができている。改善ポイントと要素を認識して業務改善をしていくことで、生産性を高め「業務・教育制度」の整備確立していく必要がある。

3. サービスについて

ご利用者の状況に応じて、「通い」「訪問」「泊まり」のサービスを組み合わせ、多職種会議、八千代台・他部署と連携、協働を行ない、また主治医に日々の様子をお伝えして、ご利用者が地域での生活が継続できるよう支援、体調変化等によるサポートへの柔軟な対応が行えた。コロナ禍のため、地域主催の夏祭り・防災訓練・サンコーポ餅つき・レコードコンサート・地域サークル（サルボボ）も行なうことが出来ませんでした。今年度もサンコーポ美化活動への参加、サンコーポ自治会と共に「サンコーポ便り」発行の継続ができ、地域拠点として役割を微力ではあったが担うことができた。

ユマニチュードの4本の柱の技法を心掛けて、関わることに努め、利用者の笑顔を引き出すことができたと思います。ケアの質を向上を図るため、ケアプランの見直しや自立支援を意識した支援を行い、ICT ツールを活用し、情報を共有して利用者の支援に繋げ、新型コロナウイルスなどの感染症を予防するために手洗い・うがい・換気を徹底し、感染が疑われる利用者とは接する際は予防着・マスク・フェイスシールドを着用してご利用者の皆様の在宅生活を継続できるように支え活動を行う事ができた。

【令和3年度 事業報告】グリーンヒル八千代台 訪問介護

1. 運営状況

コロナ禍にあってもかなりの数の新規依頼をいただきましたが、職員体制が脆弱なため対応できず、やむなくお断りする状況となりました。現状35名がご利用人数の上限となるかと思われます。一方千葉市の総合事業の立ち上げ、利用者の利便性を鑑みた一部営業時間外の訪問など、新たな試みも行っているところです。

感染対応については、ご利用者の皆様の協力（検温、マスク着用、換気）もスムーズに得られており、慎重に入室しています。現状新型コロナ陽性となられた方はいらっしゃいません。利用されている他サービス（主にデイサービス）での感染情報を得るのが難しく、今後の課題かと思われます。

職員体制・研修について

○管理者1名、サービス提供責任者1名、ヘルパー5名

個々の職員は体調管理を徹底し、安定的にサービス提供出来ました。

○コロナワクチン3回目 全員接種済み。

○研修・会議についてはオンラインを導入。まだ試験的な面もありますが運用可能となり全ヘルパーが参加しやすい状況となりつつあります。日程については月末金曜の16:30~17:30を基本とし、必要時日程調整しています。参加調整できなかった場合は、別日に機会を設けて伝達と研修を行なっています。また、技能の不足しているヘルパーに関しては、同行訪問の形で繰り返し現場研修を行っています。外部の研修については、オンライン研修参加機会の増加により、研修計画以上の研修を行なうことが出来ました。またフォローアップ研修についてはヘルパー希望時なるべく受けられるようにしています。

2. 課題と今後の方針

事業所規模が小さいため、コロナ関係での職員の休業を他ヘルパーで補うことが難しくなっています。各家庭で一人対応という特殊性から、他事業所との職員交互融通も難しいと思われます。ご利用者の受け入れ人数を制限する以外の手立てがないのが現状です。

天候に関して、雪で交通事情が悪化した際に全員徒歩対応をいたしました。ヘルパーの負担が大変大きく適切でなかったと考えています。来年度は別の方法を取れるよう、事前準備をしたく、ご協力お願いいたします。

コロナに振り回された一年でしたが、今後もこの状況は続くと考えられます。ケアマネージャー、ご利用者家族とも連絡を取り合って関係を構築し、サービス提供への支障を最小限に抑えられるよう努力していきます。

令和3年度目標値及び実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
目標人数	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	40	40
実績人数	31	29	30	31	32	34	32	32	30	28	30	32

令和3年度事業報告書グリーンヒル八千代台キッズルーム

・令和3年度は、定期的にキッズルーム会議を行なう事になりました。職員全員で話し合う事により、認識を共有し、事案の早期解決にもつながると思われま

す。
・令和3年度の利用者延べ人数、幼児 638 名・学童 302 名でした。今年度は新型コロナウイルス感染症により、1月18日～26日の9日間、保育室を閉室しました。

昨年度より続くコロナ禍にありましたが、感染症対策を講じて施設の行事に参加しました。

8月10日（火） 夏祭り

射撃・ヨーヨー釣りを楽しみ、ラムネ・かき氷・フランクフルト
たこ焼きをいただきました。

9月20日（月） 敬老会

小規模多機能利用者様にプレゼントをお渡ししました。

2021年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
幼児	45	61	77	78	63	53	39	53	47	25	42	55	638
学童	35	23	12	41	67	26	6	14	22	6	8	42	302
合計	80	84	89	119	130	79	45	67	69	31	50	97	940

グリーンヒルキッズ
【令和3年度 事業報告】

1. 事業所目標について

① 稼働率 年間稼働率 92.2 %

- ・コロナ禍での日々が続いている。家族や利用者本人に感染疑いが発症すると、長期の利用停止となることがあった。そのため、なかなか定員を維持することが難しかった。また、祝祭日の利用が少ないので目標の稼働率を達成することができなかった。

2. 事業内容について

- ・児童一人ひとりに寄り添い、個別支援計画に基づいた専門的な支援を行った。
- ・学習支援は、専門性を持った児童指導員が中心となって支援を行っている。
- ・1月末～2月にかけて、利用者本人や家族にコロナ陽性反応がでるケースが続いた。連日家庭連絡を行い、健康観察や生活の状況の把握に努めた。
- ・毎月の茶話会はコロナ感染予防のため、感染対策を徹底して5、6、10月に開催した。(7、11月は講師を招聘してのSST講習会)

3. サービス提供について

- ・開設6年を迎え、キッズの活動が利用者に定着しているが、さらなる学習支援・ソーシャルスキルの向上を目指して職員の資質向上を図るべく研修の強化・研鑽が必要である。
- ・利用希望児童の申し出は多いが、キッズとしての質を維持し、さらにより良い療育を行うため、待機していただいている状況である。
- ・外出活動が引き続き自粛されているが、ゆりのき台事業所と合同でイベントを企画したり市内の公園で遊んだりと限られた活動の中でも楽しめるように計画している。児童の活動の様子は、毎月発行の利用申請書に写真と共に記載して保護者に発信した。

グリーンヒルキッズ
【令和3年度 事業報告】

1. 事業所目標について

① 稼働率 年間稼働率 92.2 %

- ・コロナ禍での日々が続いている。家族や利用者本人に感染疑いが発症すると、長期の利用停止となることがあった。そのため、なかなか定員を維持することが難しかった。また、祝祭日の利用が少ないので目標の稼働率を達成することができなかった。

2. 事業内容について

- ・児童一人ひとりに寄り添い、個別支援計画に基づいた専門的な支援を行った。
- ・学習支援は、専門性を持った児童指導員が中心となって支援を行っている。
- ・1月末～2月にかけて、利用者本人や家族にコロナ陽性反応がでるケースが続いた。連日家庭連絡を行い、健康観察や生活の状況の把握に努めた。
- ・毎月の茶話会はコロナ感染予防のため、感染対策を徹底して5、6、10月に開催した。(7、11月は講師を招聘してのSST講習会)

3. サービス提供について

- ・開設6年を迎え、キッズの活動が利用者に定着しているが、さらなる学習支援・ソーシャルスキルの向上を目指して職員の資質向上を図るべく研修の強化・研鑽が必要である。
- ・利用希望児童の申し出は多いが、キッズとしての質を維持し、さらにより良い療育を行うため、待機していただいている状況である。
- ・外出活動が引き続き自粛されているが、ゆりのき台事業所と合同でイベントを企画したり市内の公園で遊んだりと限られた活動の中でも楽しめるように計画している。児童の活動の様子は、毎月発行の利用申請書に写真と共に記載して保護者に発信した。

令和3年度グリーンヒルキッズゆりのき台 事業報告

1 事業目標について

稼働率 年間稼働率 99.2%

コロナ感染の影響を受け、学級閉鎖もあり利用者数は減少したが、グリーンヒルキッズゆりのき台利用児童は感染することもなく、活動することができた。急な受診で欠席する児童がいたため、稼働率は100%達成に至らなかった。子ども達は昨年コロナ禍の状況下での生活から少しずつ解放され、のびのびと子どもらしく過ごすことができた。

2 事業内容について

- ・児童一人一人に寄り添い、個別支援計画に基づいた専門的な支援を行った。
- ・学習支援は、専門性を持った児童指導員が中心となって支援を行っている。
- ・虐待問題を抱えている児童や、不登校の児童には、24時間体制で対応している。

関係機関との連携により、児童が『あなぐら生活』から明るい方向に向かってゆると歩き始めた事例あり。日々の止まらない支援が必要である。

- ・茶話会は、コロナ感染予防に対する十分な配慮のもと、4月6月10月1月の第3木曜日に開催した。7月11月は、講師を招き市民会館会議室で保護者・職員向けのSST講習会を行った。

3 サービス提供について

- ・開設3年が過ぎ、職員の離職などにより支援体制の強化がむずかしい状況であった。学習支援・ソーシャルスキルの向上を目指して職員の資質向上を図るべく研修の強化・研鑽が必要である。
- ・利用希望児童の申し出は多いが、キッズとしての質を維持し、さらにより良い療育を行うため、待機していただいている状況である。
- ・一人一人の児童の状況把握のためには、関係機関(特に学校など)との連携は必須であり、今年度はさらに強い連携を図ることができた。
- ・外出活動が自粛されていたので、ブログ等による情報発信ができなかったが、毎月発行している利用申請書に児童の活動の様子を写真と共に掲載し、保護者に発信した。
- ・長期休みなどは、グリーンヒルキッズ(村上)と合同の活動を行い、ソーシャルスキルの向上に適した取り組みを行うことができ、効果的であった。

令和3年度 グリーンヒル若葉ハウス 事業報告
(自立援助ホーム)

1. 運営状況（1日付の在所人数）

- ・年間延べ人数51名、月平均4.3人であった。
- ・新規入所：4月1名、5月1名、11月2名、1月1名の合計5名。
- ・退所人数：4月1名、5月1名、7月1名の合計3名。
- ・一時保護委託が11月中に1名。
- ・年間措置費収入が、28,803,000円

2. 支援内容について

- ・退所児における積極的なアフターケア体制を取ることができた。
- ・性知識の不十分さから異性交遊について課題を抱えるケースが多くあったことからホームでの性教育を行った。
- ・新型コロナウイルスに関してホーム内の衛生対策を徹底した。発熱等の症状のある入所児の隔離措置を行いPCR検査を受けて陽性となる。ホテル療養に行く。

3. 研修（外部）

- ・全国自立援助ホーム長研修会（令和3年7月1日）
- ・南関東ブロック自立援助ホーム研修会（令和3年9月17日）
- ・千葉アフターケア研修会（令和3年9月22日）
- ・東京都の自立支援コーディネーターの実践（令和3年11月25日）

4. 会議

- ・毎月1回

5. 年間の利用状況（1日付在所）

単位：名

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
措置	4	4	4	3	3	3	3	4	4	5	5	4	51
一時保護	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	0
合計	4	4	4	3	3	3	3	5	5	6	6	5	51

※ 一時保護 1名 11月～3月

6. 今後の課題

- ・知的障がいや発達障がい、虐待少年などの入所打診が増える中、そのような子どもたちの支援の在り方や安全確保について研修を重ね、幅広い支援ができるようスキルアップを目指していく。

以上

令和3年度 勝田台地域包括支援センター報告書

1. 勝田台地域高齢者状況（R4.3月末現在）

勝田台生活圏域人口16,202人 高齢者人口5,440人 後期高齢者数3,578人 高齢化率33.58%。介護認定者数652人（要支援202人・要介護者450人）

総人口・高齢者人口には大きな減少はないが、後期高齢者数が増加している。介護認定者数は要支援・要介護あわせて、ここ2年間で300人程減少となっている。

2. 事務所来所者状況

1年間に地域包括支援センターに来所者延べ1,681人。関係機関も含めた実数を数えているが、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前に比べると減少傾向。感染予防対策として来所を控えている事業所が一定数あるのが影響していると考えられる。

3. 総合相談事業実績

1年間の総合相談数延べ6,211件で、電話4,355件、来所857件、訪問916件とコロナ禍1年目である令和2年度より相談数は増加している。長引く自粛生活による心身機能の悪化からくる相談も多い。相談内容としては介護保険や介護に関するもの、医療・健康に関する相談が前年度同様に多く、相談者としては本人・家族、介護支援専門員からの相談が上位を占める。

4. 権利擁護に関する実績

- 消費者被害防止の啓発（居宅介護支援事業所や民生委員へのチラシ配布）
- 高齢者虐待対応

5. 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

- 個別地域ケア会議実績 1件
- 介護支援専門員へのサポート
 - ・ケアマネ交流会 ・ユアアイやちよ勝田台事例検討会 ・虐待ケースの振り返り
 - ・居宅介護支援事業所への研修計画 ・サービス担当者会議への参加
 - ・訪問看護事業所との在宅医療・介護連携研修会
 - ・認知症疾患医療センターPSWと認知症関連ケースについての研修会
- 地域包括支援センター啓発活動
 - ・みんなの体操広場を通して地域住民へ相談機関としての周知
 - ・サンコーポ便りに地域包括支援センターの記事掲載
 - ・民協で講演
- 多職種連携
 - ・研修参加などを通して関係機関との交流を図り相互理解を深める
 - ・八千代市在宅医療・介護連携支援センターへの相談

・八千代市糖尿病医療連携オンラインミーティングでの発表

○地域住民への企画

・みんな体操の広場

コロナ禍の影響下でフレイルなどの課題があり介護予防への取り組みとして開催。地域住民に向けて定期的な運動の機会の提供や健康への意識増進のため、中央公園で平日夕方にラジオ体操ややちよ元気体操など実施。年間参加者延べ5,253人。

○地域の団体の後方支援

・お番茶の会

6. 介護予防普及啓発事業

○いきいき教室 15回開催

7. 認知症地域支援・ケア向上業務

○認知症サポーター養成講座・・・広報やちよ等での募集した住民向けのもの
八千代高校（オンライン開催）

○家族交流会 ○認知症ケアパスの活用

○認知症初期集中支援チームとの意見交換

8. 第2層生活支援コーディネーター業務

・1層協議体への参加 ・2層協議体の開催 ・担い手養成講座

・移動スーパーカスミ開始に向けた地域との調整 ・地域住民の活動支援

9. 介護予防（要支援1・2）プラン作成 実績

1年間国保連請求総数1,979件（地域包括867件・委託1,112件）

年間新規55件となっている。令和3年度はプランを委託できる事業所探しに苦慮したが、委託と包括のプランナーが担当できるケースを調整を図りながら対応した。

10. 連携のための会議

○運営推進会議

・小規模多機能型居宅介護サテライトグリーンヒル勝田台運営推進会議

・ニチイケアセンター八千代勝田台運営推進会議（書面）

○民生・児童委員定例会議

○八千代市生活支援体制整備事業協議体

○地域包括支援センター各専門職会議

11. 新型コロナウイルス感染症に関連した取り組み

八千代市から地域包括支援センター向けに新型コロナウイルス感染症の対応マニュアルや法人のマニュアルの提示を受けながら業務にあたっている。事務所内の感染予防対策の強化を徹底し職員の健康管理や住民の相談対応等に努めている。地域包括への相談は、生活状況や家族背景が分からない状況で訪問する場面もあるが、発熱等の可能性のあるケースにおいては注意を払いながらチームで対応している。

令和3年度 本部総務課 事業報告

I 令和3年4月の介護報酬改定における「科学的介護情報システム (LIFE)」の導入に向けて基盤整備をすすめる。

⇒上高野における Wi-Fi 設置による通信環境の整備が完了した。4年度は本格的な運用に向けて、機材の配置等環境面の体制づくりを進めていく。

II 新型コロナウイルス感染症対策に継続して取り組み、全職員の健康管理および施設内感染発生時の対応について各事業所と連携して取り組む。

予防対策

【PCR 検査】

総検査数は、令和2年度受検者数346名のうち陽性者13名(陽性率3.8%)に対し令和3年度は受検者数6,254名のうち陽性者は73名(陽性率1.2%)であった。

(令和4年4月30日現在、受検者数延べ7,409名のうち陽性者延べ94名 陽性率1.3%)

受検者数が増えた主な要因として、①千葉県および日本財団による無料集団検査を全職員(委託宅業者を含む)対象に月2回(1回につき約260名受検)令和4年3月までに計24回実施。②職員本人やその家族に体調不良の自覚症状や濃厚接触判定、感染疑いなどが発生した際に個別検査を実施したことが挙げられる。

【ワクチン接種】

職員約260名を対象とした3回目のワクチン接種状況は、令和4年3月末時点で224名(接種率86.1% 4月末時点で228名87.7%)となっており、未接種者16名も5月中に接種予定。最終的には244名が接種完了見込み。(接種率93.8% 3回目接種を希望しない者16名)

感染対策

感染拡大の第6波が発生した令和4年1月以降、感染または感染の疑いがある職員を①陽性者②濃厚接触者③要観察者に分類し経過観察を実施。(令和4年3月末時点で114名①23名②22名③69名) 家族全員が感染したケースでは、待機期間中の食料提供に対応したケースも発生した。また、待機期間が14日以上長期になるケースもあり、長期欠員対応のため他の職員がシフトをカバーしたりシフト変更するなど対応している。さらに待機明けの職場復帰は状況に応じて簡易抗原検査を行い陰性確認するなど感染対策を徹底している。また、小学生以下の子供をもつ職員が子供の感染により仕事ができない場合に、法人が給与の一部を補償した際に支給される助成金(小学校休業等対応助成金)の申請準備を進めている。

今後の対応

- ・基本的な感染対策の再徹底のほか、1日3回の共有箇所(手すり・EV等)の消毒や昼食時の黙食励行及び3密回避(グリーンヒル会議室の利用)に取り組む。
- ・4回目のワクチン接種を見据え高い接種率に裏付けられた重症化回避を図る。
- ・健康観察の確認対象を引き続き職員の家族まで広げ、感染の早期発見・早期対応を各部門が情報提供・収集・共有し相互協力しながら組織として対応する。
- ・今後、千葉県による無料のPCR検査が終了見込みであることから、現在法人が適宜購入している抗原検査キットを有効活用していく。

以上

社会貢献の取り組み

I 社会福祉法人の責務として

社会福祉法の第一条「福祉サービスの利用者の利益の保護及び地域における社会福祉の推進を図るとともに、社会福祉事業の公明かつ適正な実施の確保及び社会福祉を目的とする事業の健全な発達を図り、もつて社会福祉の増進に資することを目的とする」

方針 社会福祉法人の責務・法人理念の実現を目指し、施設の持ち得る機能・知識を地域の方々等へ提供していく支援体制の構築

目標 地域住民が主体的にできるように協力[後援]していく

1 学校 福祉教育

① 八千代台西小学校 総合学習

主催 八千代台西小学校 5学年

場所 八千代台西小学校視聴覚室

日時 令和3年10月19日 10:30~12:00

内容 視覚障がい者体験 片麻痺体験（杖歩行者介助）

協力 高齢者複合ケア施設 グリーンヒル八千代台 大塚PT 武田PT 角掛 吉村

2 男の雑学塾 第3回「介護講座」

主催 八千代市男女共同参画センター

協力 八千代台地域包括支援センター・八千代市社会福祉協議会・高齢者複合ケア施設 グリーンヒル八千代台

日時 令和3年7月30日 10:00~12:00

会場 男女共同参画センター5Fホール 参加者6名

内容 介護について・車椅子の操作と体験 職員 大塚PT・武田PT・大竹

3 八千代市立八千代台西小学校 資源回収（2018年より）

目的 八千代台西小学校が資源回収を行っていることから当施設でも新聞やチラシ・雑誌等がゴミとして出ている現状であり、地域の「ゴミ減量運動・再生資源回収」活動に参加する。

回収日 毎月 第3水曜日

高齢者複合ケア施設 グリーンヒル八千代台 特養・SS・小規模・居宅・訪問介護

4 勝田台駅前清掃活動（2015年より参加）

目的 多くの人々が利用する駅前をきれいにしたいという思いから、40年前に京成勝田台駅前にあるサンコーポ自治会がクリーン推進部をつくり月1回の清掃を行なっています。「健康・家計・住居者交流」3R活動を積極的に取り組んだことが評価されH30.11 県内初「環境大臣賞」を受賞。

日時 毎月第3日曜日（雨天中止）9:00~9:30

場所 勝田台駅前から商店街（サンコーポ勝田台A棟~F棟）・花壇など

主催 サンコーポ自治会クリーン推進部 サンコーポ勝田台住居者 毎回 15名
協力 小規模多機能型居宅介護 サテライトグリーンヒル勝田台 花島 辻内 久下 吉村

5 八千代台元気クラブ (2011年より)

主催 小規模多機能型居宅介護 グリーンヒル八千代台 担当 上田 白土
日時 毎週水曜日 13:30~15:00
場所 高齢者複合ケア施設 グリーンヒル八千代台(応接室)
内容 編み物 絵手紙等 参加 地域の方々 定員7名/回

6 サンコーポ勝田台 自治会便り発刊 (2018年より)

発行 サンコーポ勝田台自治会 発刊 毎月1日 部数400部/回
内容 自治会メンバーが書いた記事を頂き、発刊物のレイアウト及び編集・印刷作業を協力
協力 小規模 花島 大竹 総務 松野

7 体操教室 「元気がつくる健康 健康管理でいつまでも元気に」

主催 勝田台公民館 協力 グリーンヒル八千代台 担当 大塚PT 武田PT 連絡調整等 大竹
日時 5/21 6/18 7/16 9/17 10/15 11/19 12/17 1/14 1/18 3/18
参加者 10名(各回)
場所 勝田台公民館 体育室
内容 国立長寿医療研究センターが開発した、高齢者のためのエクササイズ簡単な計算やしりとりなどの課題を運動と一緒に行うことで、認知症の予防と健康促進を目指す。

8 勝田台体操クラブ (クラブ主催) 後援:勝田台公民館

担当:グリーンヒル八千代台 加藤PT 武田PT 連絡調整等 大竹
第1(基本)土曜日 (予備 第3土曜) 10:00~12:00 勝田台公民館 体育室
6/5 7/3 9/4 10/2 11/6 12/4 3/5 4/2 5/7 参加者 15名(各回)

9 共生Café ふらっとホーム グリーンヒル (臨時 食材配布)

協同開催 八千代市社会福祉協議会 八千代台西北支会
日時 R.5/28 8/16 8/19 10/20 10/26 12/21 12/23 12/28
R4.3/8
場所 グリーンヒル八千代台ピロティにて。(八千代台小学校・八千代台西小学校とクリスマスイベント時は各小学校にお届けしています。)
内容 フードバンクである八千代市社会福祉協議会と協力し、地区社協である八千代台西北支会と協同し地域の方々へ臨時開催ではあるが食材配布を行なう。

10 いきいき教室 [介護予防普及啓発事業 介護予防教室] 場所 東南公民館・八千代台公民館

口腔・栄養・運動(内：栄養 渡辺管理栄養士、小川管理栄養士・運動大塚 PT、武田 PT)

主催 八千代台地域包括支援センター 協力 社会福祉法人 翠燿会

日時 令和3年7月13日(火)・28日(水)、10月22日・29日(金) 運動 10:00~11:30

令和3年5月25日(火)・31日(月)、11月19日・26日(金) 栄養 10:00~11:30

内容 運動『コグニサイズ』認知症の予防と健康促進 参加者 15名

栄養『塩分の工夫・美味しく食べて血圧管理』『食事上げる免疫力』 参加者 7名

☆ 新型コロナウイルスの影響にて感染拡大を予防のため中止又は縮小となった予定活動

1 料理教室 勝田台公民館

2 サンコーポ勝田台自治会 餅つき大会(歳末助け合い募金運動)

3 グリーンヒル八千代台 お餅つき大会 縮小 時間帯分割参加方式

4 グリーンヒル八千代台 夏まつり 縮小 利用者のみ

4 GHY地域サークル(さるぼぼ等) 勝田台サンコーポD棟 集会室

5 フラワーアレンジメント教室(地域開放講座) 主催 calm

6 すばる将棋教室 主催:八千代市社会福祉協議会八千代台西北支会

7 共生Café ふらっとホーム グリーンヒル(食堂) 配布事業へ変更

8 勝田台支会 八千代台西北支会 推進委員活動 主催 八千代市社会福祉協議会 地域振興課

II 実習・研修・体験学習生等受け入れ(養成学校・大学・千葉県職員・特養職員対象)

① 中央介護福祉専門学校(介護実習)

期間:5月26日~7月2日 2名 受入部署:特養

6月7日~6月10日 2名 受入部署:小規模多機能

6月14日~6月17日 2名 受入部署:小規模多機能

6月21日~6月24日 2名 受入部署:小規模多機能

11月8日~11月10日 2名 受入部署:小規模多機能

11月8日~12月7日 2名 受入部署:特養

延べ12名受入

② 松戸向陽高校(介護実習)

期間:7月26日~7月28日 2名 受入部署:小規模多機能

10月25日~10月27日 2名 受入部署:小規模多機能

11月1日~11月22日 2名 受入部署:特養

延べ6名受入

③ 城西国際大学(介護実習)

期間:2月14日~3月1日 1名 受入部署:特養

2月14日~3月19日 1名 受入部署:特養

延べ2名受入

④ 成田福祉専門学校(介護実習)

期間:11月24日~11月26日 2名 受入部署:小規模多機能

⑤ 千葉県介護支援専門員実務研修実習(ケアマネ実習)

期間:3月14日~3月17日 1名 受入部署:居宅